

ヒヤリ・ハット事例

| | どこで | 何をしているとき | 何がどうした | 改善すべき事項 |
|----|-----------------|-------------------------------------|--|--|
| 1 | 解体工事現場で | 排出されたガラを搬出している時 | 大型10tダンプ上で、ガラの中に混入している鉄筋クズや発泡スチロールを拾う作業をしていたら、積込みの弾みでダンプが揺れ、荷台から落ちそうになったので飛び降りた。 | ショベルカーのショベルからトラックの荷台にガラを落とす時は、荷台上の作業員は作業を中断し、揺れの衝撃から身を守り安全を確保する。 |
| 2 | 解体工事現場で | 古い倉庫を解体作業中 | ラベル表示がなく、中身が残っている容器が多数あったので、産業廃棄物処理業者に処理を依頼したが、毒劇物だということが後日分かった。 | 中身の分からない容器残置物は、有害性や危険物の可能性が高いと判断し、十分な注意を払い、産業廃棄物処理業者へ委託する事を徹底する。 |
| 3 | 高速道路の料金所で | E T Cブースへ入ろうとした時 | 乗用車が隣の一般レーンより急に割り込んできて、接触しそうになった。 | 料金所のE T Cブース遮断機の開く速度が遅くなってから「遮断機が閉まらないうちに！」と、車間距離を開けずに続いて通過する車両が多い。料金所では、周囲の動きに注意して車間距離を広く取るよう心掛ける。 |
| 4 | 高速道路で（代々木） | 大型トレーラーと平行にカーブを走行中 | 大型トレーラーが、中央線を大幅にオーバーしてきた為、自車と接触しそうになり危うく事故になるところだった。 | カーブの走行は、車間距離はもちろん左右の安全確保も行い、他車と並走しないよう注意する。 |
| 5 | 現場で | アームロールにて、コンテナを所定の場所へ設置しようとした時 | 場所が狭く、前方に障害物があり、十分なスペースがとれない状況で斜めに進入し、くの字形でフェンス沿いに真っすぐ設置しなければならず、進入する角度やハンドルを切る角度の微妙な調節が必要で、コンテナがフェンスに接触しそうになった。 | 無理をせず、ゆっくりと少しずつ慎重に行い、巧くいきそうになかったら最初からやり直す。 |
| 6 | 現場で（厚木市） | 雨天時に、廃ドラム缶の引き取りをしている時 | ドラム台車にドラム缶を乗せてトラックへ向かって台車を転がしていたら、段差に引っ掛かり片手が滑ってドラム缶をひっくり返そうになった。 | 路面の状況を事前に確認する。特に、雨天時には台車を持つ手に注意する。また、使用する手袋の状況もチェックを行う。 |
| 7 | 工場内の可燃リサイクルエリアで | 可燃搬出の為、大型車両（ダンプ車）へのパレットフォークリフト荷積作業中 | フォークリフトアップして前進したところ、荷物が重くリアタイヤが浮き上がり、前倒しそうになった。 | リフトアップする前に、低い位置での荷重確認、前倒し始めた時の対処法（慌てずリフトを下げ、重心を下げる。）を確認しておく。常に危険を認識しての運行を心掛ける。 |
| 8 | 現場で | クレーン作業中 | 下のピットに、アームを下げて廃棄物を掴もうとしたら、死角となる部分に作業者がいて、ヒヤリとした。 | 下の作業者は、無線で声掛けを行い、安全を確保する。 |
| 9 | 現場で（児玉町） | 積込み作業中 | 車両を重機に着けようとしたら、バック中に入口の支柱へ車両前部が接触しそうになった。 | 周囲を良く確認し、注意して作業を行う。 |
| 10 | 一般道路で | 10t車を運転中 | 左側車線を走行中に、右側車線を走行していた車両が、ウインカーも出さずに車線変更してきたので、ハットした。 | 運転中、作業中は予測運転を心掛ける。 |
| 11 | 一般道路で（和光市） | 片側二車線道路の追い越し車線を走行中 | 左側車線を走行中の車両が、急に右側車線まで大きく頭を振り左折した。前方をよく見ていたので難を逃れた。 | 周囲を常に確認し「もしかしたら、こっちへくるかもしれない。」という予測運転を心掛ける。 |
| 12 | 農道で（宮城県） | 15tダンプを運転中 | 信号のない交差点から、軽トラックが急に表れ接触しそうになった。 | 常に周りに注意を払い、脇道に車両が駐車していたら減速して通過する。 |
| 13 | 高速道路で（上信越自動車道） | 深夜、自社へ戻ろうと峠道を走行中 | 1km程前方に、追い越し車線で故障車両が停車していた為、ハザードランプを点灯し後続車両へ合図を出したが、高速走行の車両が次々に左側車線へ進路を変えてきた為、急に車間距離が縮まった。 | 自分が法定速度を守っていても、危険な時間帯や道路状況等、より一層の安全運転が必要である。走行車線と追い越し車線でのスピード感の違い、S AやI Cから本線車道への合流など、再三の注意を認識する事が重要である。 |

ヒヤリ・ハット事例

| | どこで | 何をしているとき | 何がどうした | 改善すべき事項 |
|----|---------------|--------------------------------------|---|--|
| 14 | 高速道路で（中央自動車道） | 15tダンプで本線を走行中 | 合流車線からの進入車両に前を譲ったら、急にブレーキを踏まれ衝突しそうになった。 | 周囲に十分気を配った運転を心掛ける。危険を回避できるよう一定の車間距離は確保する。 |
| 15 | 現場で | 積み込み完了後に、積荷の状態を慣らしている時 | シートを掛けた時に、突起物があると穴が開いてしまう為、上に突き出ている木の棒を折ったら、荷台から落ちそうになった。 | 今まで以上に細心の注意を払う。荷台からの転落防止対策として、必ず安全帯を着用する。異物除去方法を工夫する。 |
| 16 | 一般道路で（栃木県） | 追い越し車線を走行中 | 前走車が、右折をしようと急にブレーキを踏んだ為、追突しそうになった。（左側へ車線変更し難を逃れた。） | 前後左右の動きは常に注意し、車間距離の確保・スピードの出し過ぎ・脇見運転には特に注意する。 |
| 17 | 高速道路で | 15tダンプで左側車線走行中 | 右側走行中のトレーラーが、ウインカーも出さずに自車の前に車線変更してきて、追突しそうになった。 | 走行中は、周囲の状況を確認しながら、危険を回避できるよう一定の車間距離を保つ。 |
| 18 | 一般道路で（寄居町） | トラック運転中 | 前を走行中の乗用車が、ウインカーも出さずに右折しようとブレーキを掛けた為、自車も急ブレーキを掛け停止した。 | 周囲の状態や、その人達が何を考えているのかは分からないので、常に気を配った運転を心掛ける。また、車間距離をとるなど自己防衛をしながら走行する。 |
| 19 | 高速道路で（郡山市） | JCTを走行中 | 本線に合流しようとしたら、ミラーの死角に入っていた車両に気付かず、接触しそうになった。 | 合流や車線変更する時は、ミラーでの後方確認のみならず、車両の横を目視で確認する。 |
| 20 | 工場内で | 積荷を降ろす為パワーゲートを下げている時 | 施設監視員が車両の後ろを通ろうとして、下げているパワーゲートの側面に額を打ち、負傷した。 | パワーゲートの昇降時には細心の注意を払い、危険などに気付いた場合はクラクション等の警告をする。再発防止として、施設監視員は構内でも必ずヘルメットを着用する。 |
| 21 | 現場で | 廃棄物回収場所へ車両をバックで寄せていた時 | 急に人が自車の後ろを横切り、ヒヤリとした。 | バック音が鳴っていても安心せず、さらにミラー等を直視しながらゆっくりバックする。助手席に人が居れば、バック誘導をしてもらう。 |
| 22 | 自社工場選別ヤード内で | 荷降ろしをする時 | サイドのあおりを開けコンパネを取る際に、荷崩れを起こしコンパネと荷に押されて転倒した。 | 荷の状態をよく確認し、単独で作業を行わず、同施設作業員に応援を頼む。 |
| 23 | 一般道路で（横浜市） | 運転中 | 前を走行中の乗用車が、ブレーキを掛けウインカーも出さずに中央分離帯を右折しようとした為、自車も慌ててブレーキを踏んだ。 | 車間距離を十分にとり、周囲の動きには注意を払う。 |
| 24 | 自社工場で | マルチ解体機で、4t平トラックに積んであるフレコンバッグを降ろしている時 | 重機の操作を誤り、誘導員にフレコンバッグが接触しそうになった。 | 重機での荷降ろし作業は禁止し、フォークリフトを使用する。 |
| 25 | 自社工場で | 新人に、フォークリフトの運転指導をしていた時 | フレコンバッグを移動するよう指示をしたら、フレコンバッグを吊り上げたまま前進しそうになった。 | 指導する者は、目を離さずしっかり面倒を見る。 |
| 26 | 自社工場で | 混雑時に、フォークリフトで荷物を移動している時 | 後方確認が不十分だった為、他のフォークリフトと接触しそうになった。 | 混雑時には、フォークリフト運転熟練者に作業させる。 |

ヒヤリ・ハット事例

| | どこで | 何をしているとき | 何がどうした | 改善すべき事項 |
|----|-----------------|-------------------------------|---|--|
| 27 | 自社工場で | フォークリフトで、トラックから自動販売機を降ろそうとした時 | 降ろそうとしていた自動販売機が、隣の自動販売機に引っ掛かり落ちそうになった。 | 引っ掛かり等の危険がないか、事前に誘導員に確認してもらう。 |
| 28 | 自社工場で | 廃棄物を破砕機室からフォークリフトで搬出する時 | 他の作業者と接触しそうになった。 | 大声で声を掛けるなどの合図をし、しっかりと確認を行う。 |
| 29 | 自社工場で | ウィング車の積荷を降ろしている時 | 強風で、積荷の段ボールが荷台下に飛んできた。 | 強風の時は横を開けず、後ろの扉から荷を降ろす。 |
| 30 | 自社出入り口で | 洗車が終わり、駐車場へ移動しようとした時 | 右側に大型車両が停車していたので、左側からの車両が途絶えたのを見計らい、右側の安全確認を行いながら出庫しようとしたら、左側から自転車が自車の前をスレスレで通過した。 | 安全確認は常に行う。 |
| 31 | 一般道路で (港区) | 信号のない交差点を左折しようとした時 | 一時停止をして、左右の安全確認を行い、巻き込みを確認後、もう一度右側の確認してから左折しようとしたら、左側後方から自転車が猛スピードで自車の脇を通過した。 | 信号のない交差点などでは、安全確認を何度も行い、死角から来る自転車や歩行者に十分注意して、ゆっくりと通過する。 |
| 32 | 一般道路で (足立区) | 交差点を通過しようと、信号待ちをしていた時 | 信号が青に変わったので、エンジンを掛けて発進しようと思ったら、信号無視をした自転車が自車の前を横切った。 | エンジンを掛ける時間があつたので大事に至らなかったが、直ぐに発進していたら事故に繋がっていたかもしれない。確認という基本動作の大切さを改めて実感した。 |
| 33 | 現場で (江東区) | 廃棄物の回収が終わり、現場を出ようとした時 | ガードマンの誘導により右折しようとしたら、左方向からの車両に気付かず、接触しそうになった。 | ガードマンの誘導に頼らず、自分の目で確認を行い、視界の悪いところもあるので、十分に注意を払う。 |
| 34 | 一般道路で (世田谷区) | パッカー車を50km位で走行中 | 前を走行中のタクシーが、横断歩道の手前で客を乗せる為に急停車した。自車も慌てて急ブレーキを掛け衝突を避けたが、ヒヤリとした。 | タクシーなどの後ろを走行する場合は、車間距離を気持ち多めに取るよう心掛ける。 |
| 35 | 一般道路で (文京区) | 右車線を走行中 | 左車線でハザードを点けて停車していた車だが、ハザードを点滅させたまま、急に右車線へ進入しようとしてきた。 | ハザードを点けて停車している車は、合図をしているつもりで移動する車もいるので、十分に注意する。 |
| 36 | 現場で (渋谷区) | 収集を終えて、帰ろうとした時 | 出口手前の急坂途中にある停止線で一時停止をし、発進しようとしたらエンストした。ブレーキを踏んだがエンストしている為に作動せず、慌ててサイドブレーキを引いたが、1m近く下がってしまった。 | 一時停止した急坂に関わらず、2速ギアで発進した為にエンストしたと思われる。今後は、必ず1速ギアで発進する。また、これは一般道路でも起こり得ることであり、エンストした際はブレーキが作動しないという事を、必ず念頭に置かなければならない。 |
| 37 | 一般道路で (大田区) | 運転中 | 渋滞していた為、信号が青でも横断歩道の手前で停止していたが、前方車両が動き出したので自車も続いて進もうとしたら、横断歩道の信号が赤なのに関わらず、歩行者が自車の前を横断しようとしたので、急ブレーキを掛け数10cm手前で停止した。歩行者も自分が悪いと思ったのか、頭を下げて行った。 | 信号が青でも、左右の確認は怠らない。 |
| 38 | 一般道路で (大田区) | 片側三車線道路の左側車線を走行中 | 真ん中車線を走行していたトレーラーが、左にウインカーを出してすぐ車線変更しようとして自車へ接近してきたが、並行していた為ウインカーに気付くのが遅れ、トレーラーの後部と接触しそうになった。 | 後方の道路状況をよく確認し、周囲の車両が車線変更してくるかもしれない事を予測して走行する。トレーラーなど大型車の横を走行する場合は、ウインカーが見にくい事があるので十分注意する。 |
| 39 | 一般道路で (港区) | 左側車線を走行中 | 右側車線を走行していたタクシーが、客を見つけウインカーも出さず急に左側車線へ割り込み停車した為、追突しそうになった。 | 常に周囲の状況を把握し、危険を回避できる速度で走行する。 |

ヒヤリ・ハット事例

| | どこで | 何をしているとき | 何がどうした | 改善すべき事項 |
|----|-------------------|---------------------|---|---|
| 40 | 自社敷地内で (足立区) | 駐車場へ車両を移動し ている時 | 一旦、一般道路へ出て移動が必要な為、ガードマンの誘導を頼りに車を発進させたら、左側から来ている車両に気付かず、衝突しそうになった。 | ガードマンの誘導に頼らず、必ず自分の目と耳で確認を行う。 |
| 41 | 高速道路で (葛飾区) | 走行中 | 反対車線の11付近で、大型車が故障し路肩に停車していた。そこに、レッカー車がハザードを点けて速度を落としたり、後方に11tロング車、自家用車が4~5台続いている、追突した。事故の当事者ではないが、ヒヤリとした。 | その時は、両車線とも道路が空いており、追突した後方の車両がスピードを出し過ぎたか、脇見運転もしくは車間距離をとっていないかったが原因だと思われる。 |
| 42 | 一般道路で (足立区) | 雨の中運転中 | 路面が濡れていたところに、猫が飛び出してきたので急ブレーキを掛けたら、タイヤがロックして10mくらい操作がきかなかった。 | 雨が降っている時などは、急ブレーキを掛けないよう控えめな運転を心掛ける。 |
| 43 | 一般道路で (墨田区) | 走行中 | 歩行者用信号が赤だったにも関わらず、交差点3m程手前の木の陰から、人が横断しようと自車に接近してきた。 | 交差点の手前でも、いつ歩行者が出てくるかと予測して走行する。 |
| 44 | 一般道路で (港区) | 走行中 | 前車が、ウインカーも点けずに急にUターンしようとした。 | 車間距離を十分にとるよう心掛ける。 |
| 45 | 一般道路で (江戸川区) | 現場である駅へ向かう ため走行中 | 停車中のタクシーが、ウインカーも点けずに急に割り込んできたので、急ブレーキを掛けて回避した。 | 駅周辺という事もあり、人・自転車・バイク・車、何がどのように飛び出してくるか分からない。スピードは控えめにし、周囲に気を配りながら走行する。 |
| 46 | 一般道路で (板橋区) | 廃棄物の収集に行く途 中 | 頻繁に通る道の為、危険を知っているのに徐行運転をしていたら、左右一時停止にも関わらず、突然自車の前を車が通過した。 | 今後も、狭い道では徐行運転を心掛ける。 |
| 47 | 一般道路で | 出勤時に裏道を走行中 | 交差点で、信号を無視して走ってきた自転車が、自車の目の前を通過した。徐行していたので事故にはならなかった。 | 見通しの悪い交差点なので、スピードは出さず安全確認をしっかり行う。 |
| 48 | 高速道路で (首都 高速道) | 左側車線を走行中 | 大型トラックが、中央車線から車間距離も取らずに自車の前へ急に割り込んできた為、追突しそうになった。 | 車間距離を十分にとり、常に安全な速度で走行するよう心掛ける。 |
| 49 | 自社工場内で | コンボを操作中 | 木くずを破碎していたら、破片が飛んで作業員に当たりそうになった。 | 木くずの破碎中は、自分の作業を中断してでも近付かないよう徹底する。 |
| 50 | 一般道路で (江戸川区) | 自社へ戻る為走行中 | 土手道の幅が狭く、大型車が通ると中央車線をまたぐ状態になり、接触を避ける為ブレーキを掛けることが多い。 | ゆとりある運転を心掛ける。 |
| 51 | 一般道路で (足立区) | 自社へ戻る為走行中 | 右折・Uターン禁止の場所で、前車が突然右折しようとした為、急ブレーキを踏み停車した。 | 車間距離を十分に取り、ゆとりある運転を心掛ける。 |
| 52 | 一般道路で (中央区) | 廃棄物を回収しに行く 途中 | 地上と地下との合流地点で、ウインカーも出さずに、いきなり自車の前に車が入ってきた。 | 車間距離を十分に取り、「~だろう」運転を止める。 |

ヒヤリ・ハット事例

| | どこで | 何をしているとき | 何がどうした | 改善すべき事項 |
|----|-----------------|--|---|---|
| 53 | 一般道路で (板橋区) | 営業車を運転中 | 高速道路入口付近から、突然自車の前へ車が割り込んできた。 | 合流場所では、特に注意する。 |
| 54 | 一般道路で (足立区) | 帰庫する為走行中 | 猫が道路を横切ったのが見え、急ブレーキを掛けそうになった。 | 後方車両等の確認は、こまめにしておく。 |
| 55 | 一般道路で (葛飾区) | 出勤する為運転中 | 左側が直進車線、右側が右折車線の二車線道路で、自車は左側車線を進行中、並行していたトラックが交差点を過ぎて右折せず直進してきた為、接触しそうになった。 | 幸い接触はしなかったが、最近このような違反をよく見かけるので、周囲の状況には十分注意する。 |
| 56 | 一般道路で | トラックで帰社途中 | 車線変更禁止の場所で、ウィンカーも出さずに急に自車の前へ割り込んできた。 | 車間距離を多めに取り、ゆとりある運転、かもしれない運転を心掛ける。 |
| 57 | 一般道路で (中央区) | 一方通行道路を走行中 | 前車が、ハザードランプも出さずに停車し、縦列駐車をしようとしてバックしてきた為、接触しそうになった。 | 車間距離を十分取る。 |
| 58 | 自社場内で | お客様が持ち込む家電リサイクル品を、フォークリフトで降ろして所定の場所へ運んでいる時 | 通常、16時30分以降は受け付けしない事になっているが、いつも来るお客様なので受けてしまい、暗い中フォークリフトを使って作業をしたため、設置してあるコンテナボックスに接触しそうになりハットした。 | 冬の暗い場内でもあり、決められている時間以降の受け付け及び作業は行わないよう周知徹底している。 |
| 59 | 一般道路で (八王子市) | 4tパッカー車でマンション廃棄物の収集が終わり、大通りへ出ようとした時 | 廃棄物の収集を見ていた3歳位の男の子が、急に車両の近くへ寄ってきた。(親と一緒に見ていたのには気付いたが、親の手を離れて興味本位に近付いてくるとは想像もしていなかったため、ヒヤリとした。) | 子供がいる事に気付いたときは、近寄ってくるかもしれないと十分認識する必要がある。また、マンションや集合住宅等の収集では、自転車置き場や駐車場の陰から、いつ子供が飛び出してくるかもしれない事も認識し「即」止まれる速度で走るよう心掛ける。 |
| 60 | 現場で (八王子市) | 4t平ボディーへ、大きな網に入ったペットボトルの積み込みをしていた時 | 荷台へ上りペットボトルを整理しようとしたら、たるんでいた網に靴が引っ掛かり荷台から落下しそうになった。 | ①網がたるんでいたなら、ペットボトルの量を増やす。(網をいっぱいにする。)②網の口をしっかりと縛る。③荷台には上らず、煽りを外して整理する。 |
| 61 | 敷地工場外で | フォークリフトにて搬入作業中 | バックをしたため、後方に人が立っていた為、接触しそうになった。幸いスピードが出ていなかったため、事故にはならなかった。 | 目視による安全確認と、速度に気を付けるよう徹底する。 |
| 62 | 工場内で | 機械周辺の清掃中 | 頭上に危険と思われる箇所があるのに、ヘルメットを着用せずに作業を行ったため、危うく頭部を怪我するところだった。 | 危険と思われる場所では、ヘルメットの着用を義務付け、常に安全作業に努める。 |
| 63 | 工場内で | 破袋機のメンテナンス中 | 脚立を使い高く上る途中で、脚立のストッパーが外れて転落した。幸い落ちた場所が良かったため、怪我はなかった。 | 点検用のハシゴを取り付けた。脚立等の道具の点検はしっかり行う。 |
| 64 | 工場内で | バンカー内の清掃中 | 起動中のコンベヤーと、本体の枠部分へ無意識に手を掛けてしまい、挟まれそうになった。幸い手袋をしていたため、怪我はなかった。 | 危険な場所の1つなので、手を掛けられないよう保護をするか、目印を付けて事故を防ぐ。 |
| 65 | 一般道路で (西東京市) | 車で収集先に向かう途中 | 交差点の信号が青にも拘らず、3~4km手前から自車の前を走行していた(無灯火・蛇行運転)車両が急停車した。不審に思い、車間距離を十分にとっていたので何事もなく対応できたが、一歩間違えば事故になっていたかもしれない。 | 不審な動きをする車両には近づかず、抜き去るか一旦停車するなどして危険を回避する。 |

ヒヤリ・ハット事例

| | どこで | 何をしているとき | 何がどうした | 改善すべき事項 |
|----|------------------|---|--|---|
| 66 | 交差点で (世田谷区) | 右折信号に従い、右折 態勢に入った時 | 左側からの直進車両が赤信号で待機している状況 の中、突如、車と車の間から傘を差した自転車が 飛び出してきた。予測運転をしていたので、急ブ レーキを掛けることもなく通り過ぎたが、焦っ ていたら衝突していたかもしれない。 | 今回のケースもそうだが、自転車や歩行者 は、いつ死角から飛び出してくるか分からない。 対向車が渋滞している時などでも、特に 大型車両の周囲には気を付けて運転するよう 心掛ける。 |
| 67 | 現場で | 集積所にバックで入ろ うとした時 | 後ろから来ていた自転車に全く気付かずバック していたら、そのまま自転車は急ブレーキ を掛けながら自車の脇をすり抜けて行った。 | バックをする時は、サイドミラーだけでな く、バックモニターでも後方の確認を行う。 |
| 68 | ダンピングヤード 内で | 分別を終了した廃棄物 を工場施設内に投入す る為、ペイローダーで 集積作業中 | バックしようとしたら、作業員が後ろを横断 した。 | ①ペイローダー作業中は、後方を横断しない旨を 周知徹底する。②重機運転手は、作業員の動きを 無線等で把握し、バック時には指差し呼称を励行 し、徐行する。③重機と作業員が混在して作業す る時は、作業指揮者の指示下で行う。 |
| 69 | 検品ヤード内で | 2 tトラックの荷台 で、木くずをコンテナ 内に投入する時 | バタ角に付いていた釘が革手袋に引っ掛か り、身体が振られて荷台から落ちそうになっ た。 | ①木くずを扱う時は、釘類が手袋に引っ掛かる可 能性が高いことを意識し、釘の有無、位置を確認 して持つ箇所に注意を払う。②パレット等の木製 の重量物を扱う時は、釘等の突起物の確認と共 に、一人作業を避け無暗に投げたりしない。 |
| 70 | 朝の通勤時の路 上で | 乗用車で一般道路を走 行中 | カーブを曲がったら朝日で逆光となり、前車 がいなかった為に信号が変わったのに気付く のが遅れ、赤信号を直進しそうになった。 | ①冬季の通勤時は常に逆光を意識し、逆光の時に はサンバイザーを下げてスピードを落とす。②サン バイザーを下げると視界が狭くなるので、周囲 の確認に細心の注意を払う。③通勤には時間に余 裕を持ち、ゆったりとした運転をする。 |
| 71 | ダンピングヤード 内で | 分別した木くず等を集 積する為、ペイロー ダーを荷に近づけよう と移動した時 | 荷の端にあった直径10cm、長さ20cm 程の塩ビ管を踏んでしまい、塩ビ管が横方向 に飛んで作業員に当たりそうになった。 | ①原則は荷の上を走行しない。やむを得ず荷の端 等を走行する場合は、飛散物（塩ビ管、ガラ、缶 類等）を除去し、確認した後とする。②重機の移 動時は無線等で連絡をし、作業員は分別作業等を 中止して重機から出来るだけ離れる。 |
| 72 | ダンピングヤード 内で | 朝の日常点検及びエ ア一等による清掃終了 後、重機をバックさせ ようとした時 | 重機の後ろに作業員が立っていたので、ヒヤ リとした。 | ①停止していた重機を動かす場合は、死角や周囲 に気を配り、指差し呼称で確認する。②重機を バックさせる際は、無線連絡等で作業員へ周知 し、バックブザーを鳴らして一呼吸置いてから ゆっくりバックする。 |
| 73 | 検品ヤード内で | 雨の中、収運車の荷台 で荷降ろし作業を行 い、荷の上を移動しよ うとした時 | 足が滑り、荷台から転落しそうになった。 | ①荷が濡れている時は、意識的に上に乗っての移 動は避け、荷の上の作業は重心を下げる又は座っ て行う。②濡れると木くずや段ボール等は滑りや すいので、無理をせずゆっくり移動、作業する。 また危険を感じた時は、手降ろしは中止する。 |
| 74 | 検品ヤード内で | 重量（約20kg）あ る廃棄物を移動させよ うと、一人で持ち上げ た時 | 腰に痛みを感じた。 | ①重量物を扱う場合は、不用意に持ち上げずに正しい 姿勢で行う。日頃より正しい姿勢を教育する。②重量 物は一人作業を避け、応援を頼み二人以上で行う。③ 腰痛等の持病を持っている人は、朝の体操やストレ ッチを入念に行い、必要に応じてサポーター等を装着し 防護する。 |
| 75 | 一般道路で (相模原市) | 交差点付近を直進中 | 左側車線を走行中の車両が、方向指示器も出 さずにいきなり自車を遮り右側車線へ進路変 更してきた為、急ブレーキを掛けた。法定速 度を守り走行していたので、難を回避でき た。 | 常に何が起こるか分からないので、法定速度 や車間距離を守りながら走行するよう心掛け る。 |
| 76 | 一般道路で (相模原市) | 店舗内から廃棄物を収 集車に積み込もうとし た時 | 収集車の脇を通ろうとしたら、乗用車が走行 してきて接触しそうになった。 | 車の陰から脇に出る際は、車やバイク、自転 車などの存在を確認してからにする。 |
| 77 | 現場の小学校で (町田市) | 排水管詰まり直し作業 中 | 危ないので注意はしていたが、外部柵を開け て作業をしていたら、児童が覗きに来て外部 柵へ落ちそうになった。 | 外部柵の周囲を、ポール等で囲って作業を行 う。又は、学校関係者に作業場へは近寄らな いよう校内放送等で周知してもらう。 |
| 78 | 自社構内で | 廃棄物の荷降ろし作業 後 | 車両のフックにハンガーが引っ掛かっていた ので、ドライバーにホッパーを降ろさないよ う声を掛け、ホッパーの安全バーを降ろしハ ンガーを取り除こうとしたら、突然ホッパー が下降した。 | 作業員とドライバーとは常に連携をとる。ド ライバー自身も運転席を降りて、後方の安全 確認を行う。作業員は、安全確認の合図など を、ドライバーに分かるよう指示をする。 |

ヒヤリ・ハット事例

| | どこで | 何をしているとき | 何がどうした | 改善すべき事項 |
|----|-------|--------------------------------|--|---|
| 79 | 工場内で | ドラム缶をトラックの荷台からフォークリフトで降ろそうとした時 | ドラムクリッパーでドラム缶を掴んだら、ドラム缶が変形していた為、クリッパーからドラム缶が外れて荷台から落ちそうになった。 | ドラム缶が変形していたら、ドラム缶を動かし変形していない箇所を探してクリッパーで掴むようにする。また、キャップが閉まっているかも確認する。 |
| 80 | 一般道路で | トラック運転中 | 曲がろうとしていた交差点名を確認しようと地図を見たら、前を走行していた車両が止まっていて、追突しそうになった。 | 地図は停車中に確認する。 |